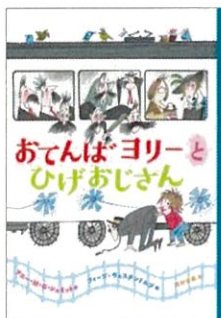


# おはなし トレイン



## 3・4年生

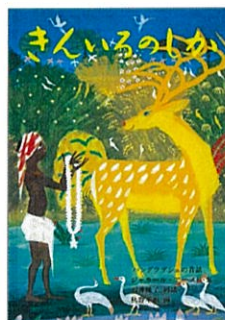


### 『おてんばヨリーとひげおじさん』

アニー・M.G.シュミット/作  
フィーブ・ヴェステンドルフ/絵  
にしむら ゆみやく  
西村 由美/訳  
いわなみしよてん  
岩波書店

きねんれっしゃ しゅつぱつ いわ ひ れっ  
記念列車が発出するお祝いの日、ハリネズミが列  
しゃ した たす  
車の下にもぐりこんでいました。ハリネズミを助けよ  
うとしたヨリーは、そこでとんでもないものを見つ  
てしまいます。列車をとめるため車掌のひげおじさ  
んとヨリーはバイクで列車を追いかけますが、次か  
ら次へと事件にまきこまれていきます。列車の乗  
うんめい  
客の運命はいかに？

## 1・2年生



### 『きんいろのしか』

むかしばなし  
バングラデシュの昔話

ジャラルール・アーメド/案  
いしい ももこ/再話  
あきの ふくが  
秋野 不矩/画  
ふくいんかんしよてん  
福音館書店

よのなかで、何よりもきんのすきな王さまがいま  
た。そんな王さまの前に、ふしぎなきんいろのしかが  
あらわれます。どうしてもしかを手に入れたい王さま  
は、うしおいのホセンに「三日のうちに あのかを  
つかまえてこい」とめいれいします。その日からホセ  
ンのたびがはじまりました。さて、ホセンはきんいろ  
のしかをつれてくることができるのでしょうか？

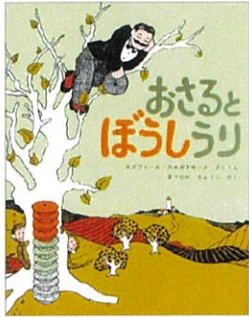
## 5・6年生



### 『きみようじよちよう なつ 帰命寺横丁の夏』

かしわば さちこ さく  
柏葉 幸子/作  
さたけ みほ え  
佐竹 美保/絵  
こうだんしゃ  
講談社

なつ よ あ まえ しょうがく ねんせい しぶん いえ ぶつ  
夏の夜明け前、小学5年生のカズは、自分の家の仏  
ま しろ きもの き み し おんな こ て  
間から白い着物を着た見知らぬ女の子が出てくる  
のを見てしまいます。まさか幽霊？ しかも学校に行く  
と、その子は幼なじみのクラスメイトだということです。  
カズがへんなのでしょうか？ どうやら、カズの家  
の近くには不思議な言い伝えがあるようで…。  
ちよだ としよかん てんしばん  
千代田図書館には電子版もあります。



## 『おさと ぼうしうり』

エズフィール・スロボドキーナ/さく・え  
まつおか きょうこ/やく  
ふくいんかんしよてん  
福音館書店

むかし、たくさんのおうしを頭の<sup>あたま</sup>にのせて<sup>う</sup>ある<sup>ある</sup>売り歩く、ぼうしうりがいました。ある<sup>ひ</sup>日のこと、朝<sup>あさ</sup>からあちこち行っても、ぼうしはひとつも売れず、歩きつかれてひとやすみすることにしました。大きな木にもたれ、長いことねむって目がさめると、ぼうしがありません。いったいどこへいったのでしょ。おさとぼうしうりのやりとりがゆかいです。



## 『わたし、 パリにいったの』

たかどの ほうこ/著  
しよてん  
のら書店

お姉<sup>ねえ</sup>ちゃんのはなちゃんは、パリ<sup>い</sup>に行ったことがあります。その時<sup>とき</sup>、妹<sup>いもうと</sup>のめめちゃんは生まれていなかったの<sup>う</sup>で、パリでとったしゃしんにはうつついていません。ところが、めめちゃんはパリのようすをつぎつぎと<sup>かた</sup>語りはじめます。なんとめめちゃんはお母<sup>かあ</sup>さんのおなか<sup>なか</sup>の中から外<sup>そと</sup>を見ていた<sup>み</sup>というのです! まるで、りょうを<sup>き</sup>しているような<sup>はなし</sup>気もちになるお話<sup>はなし</sup>です。



## 『ふらいばん じいさん』

かんざわ としこ さく  
神沢 利子/作  
ほりうち せいいち え  
堀内 誠一/絵  
しよぼう  
あかね書房

まっ黒<sup>くろ</sup>なおなべのふらいばんじいさんは、たまごをやくの<sup>だい</sup>が大<sup>だい</sup>すき。ところが、あたらしいなべがきて、たまごをやかせてもらえなくなります。そこで、じいさんは<sup>ひろ</sup>広い<sup>ひろ</sup>せかいへ<sup>て</sup>たびに出<sup>で</sup>ました。ジャングルでひょうや<sup>あ</sup>さる<sup>そうげん</sup>に<sup>うみ</sup>会い、<sup>なか</sup>草原<sup>なか</sup>やさばく、海<sup>うみ</sup>の中<sup>なか</sup>までも…。はてさて、<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>やさしいふらいばんじいさんのぼうけんの<sup>たび</sup>たびは、どこまでつづくのでしょか?



## 『うずらの うーちゃんの話』

かつや かおり/作  
ふくいんかんしよてん  
福音館書店

うーちゃんは、ぼくが<sup>ようちえん</sup>幼稚園<sup>とき</sup>の時<sup>とき</sup>にもらってきたうずら<sup>うずら</sup>です。せまいところがきらいで、かごの中<sup>なか</sup>で<sup>おお</sup>大<sup>おお</sup>あ<sup>あ</sup>べ<sup>べ</sup>れます。庭<sup>にわ</sup>に出<sup>で</sup>ると元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>に<sup>ある</sup>歩<sup>ある</sup>き<sup>ある</sup>まわり、<sup>とき</sup>時<sup>とき</sup>にはとぶ<sup>とぶ</sup>こと<sup>こと</sup>もあります。ある日<sup>ひ</sup>、うーちゃんはネコとたたか<sup>あし</sup>い、<sup>あし</sup>足<sup>あし</sup>を<sup>あし</sup>け<sup>あし</sup>が<sup>あし</sup>して<sup>あし</sup>しま<sup>あし</sup>い<sup>あし</sup>ました。ぼくは、しんぱい<sup>あし</sup>で<sup>あし</sup>た<sup>あし</sup>まり<sup>あし</sup>ませ<sup>あし</sup>ん<sup>あし</sup>で<sup>あし</sup>したが、<sup>み</sup>見<sup>み</sup>ま<sup>み</sup>も<sup>み</sup>る<sup>み</sup>こ<sup>み</sup>と<sup>み</sup>しか<sup>み</sup>か<sup>み</sup>で<sup>み</sup>き<sup>み</sup>ませ<sup>み</sup>ん。 「うーちゃん! がんばれ!!」

3・4年生



### 『和ろうそくは、つなぐ』

おおにし のぶお ちよ  
大西 暢夫/著  
アリス館

わ 和ろうそくを知っていますか？ 少しの風ではびくともしない、美しい灯りをともし和ろうそくは、様々な伝統工芸とつながりを持っているのです。ろうそくづくりで出る「蠟かす」は藍染で使う「藍」の発酵を助け、陶器、和紙、墨へと使い終わったものが次のモノづくりに生かされます。今も続く、捨てるものがない暮らしを伝えてくれる写真絵本です。

3・4年生



### 『みしのたくかにと』

まつおか きょうこ さく  
松岡 享子/作  
おおこそ れいこ え  
大社 玲子/絵  
こぐま社

ある日おばさんが、台所でたねを見つけました。何のたねかはわかりませんが、庭に植え「とにかくたのしみ」とかんばんをたて、育てることにしました。散歩のとちゅうでこれを見た王子さまは、勉強ばかりの毎日がいやになり、思いがけないことを言い出します。作者の松岡享子さんは、たくさんの楽しいお話を書き、外国のお話も日本語に訳しています。

3・4年生



### 『ぼくんちのねこのはなし』

いとう みく/作  
そしき だいすけ え  
祖敷 大輔/絵  
くもん 出版

こころは人間でいうと、80歳くらいのおじいちゃんねこ。一真が生まれる前から家にいて、兄弟のような仲です。ある日、元気のないこころを動物病院につれて行くと、病気かもしれないと言われて一真は心配になります。ところが検査を続けようと言うお医者さんに、お母さんは乗り気ではない様子。それぞれが考える「こころのためにできること」とは。

3・4年生



### 『空とぶ船とゆかいななかま』

ウクライナのおかしばなし  
パレリー・ゴルバチョフ/再話・絵  
こだま ともこ/訳  
みつむらきょういくとしよ  
光村 教育図書

むかしむかし、ある村に「世界一のまぬけ」とよばれているわかものがいました。「空とぶ船にのっておしろまできたものは王女とけっこんできる」というおふれを聞き、わかものはさっそく船をさがしにでかけます。とちゅうで出会ったふしぎな7人のなかまと力をあわせて、次々とこなんをのりこえていきますが…。ウクライナのゆかいなむかし話です。



## 『ぼくらのスクープ』

あかはね ちよ  
赤羽 じゅんこ/著  
こうだんしゃ  
講談社

しゃかい か けんがく あ しんぶん きしゃ しんぶんがかり  
社会科見学で会った新聞記者にあこがれて、新聞係  
になったイダッチ。相棒は、無口で変わりものの「魔王」  
です。イダッチには、わけあって真実をのせたいという熱  
い思いがあります。けれど、魔王と意見が食いちがうし、  
取材をしても新聞にのせられないことばかりです。「心  
にひびく記事って、どうやったら書けるのかな。」正反対  
コンビが作る学級新聞の行方はどうなるのでしょうか？



## 『あららのはたけ』

むらなか りえ さく  
村中 季衣/作  
いしかわ えりこ/絵  
かいせいしゃ  
偕成社

ひとり暮らしのじいちゃんの病気をきっかけに、山口  
県へ引っこしたえりは、幼なじみのエミと手紙のやり  
とりをはじめます。手紙の内容は、えりが世話をする  
ことになった畑や、そこへ来る鳥やイノシシのこと、そ  
れからもうひとりの幼なじみ、部屋から出てこなくな  
ったけんちゃんのこと。自然の不思議としなやかさか  
ら学ぶ、ふたりの心の成長をさわやかにえがきます。



## 『天の蚕が夢をつむぐ』

おしまつむぎ  
大島 紬ものがたり

たにもと ゆうじ ちよ  
谷本 雄治/著  
フレーベル館

2021年に世界自然遺産に登録された奄美大島。還  
暦を機に織物名人の南修郎さんは「100%奄美産  
の大島紬」を作ろうと決意します。クワを育て蚕を  
飼育し、自分の目指す大島紬を作ろうと挑戦を続  
けた結果、いろいろな人の協力のもと奄美大島独自  
のヤママユの新発見にもつながっていきます。夢に向  
かってふみ出すことの大切さを教えてください。



## 『名探偵カッレ 城跡の謎』

めいたんてい  
アストリッド・リンドグレン/作  
あきら こやく  
菱木 晃子/訳  
ひらさわ ともこ/絵  
いわなみしよん  
岩波書店

のどかな田舎町で楽しく夏休みを過ごすカッレ、アン  
デッシュ、エヴァロッタの三人組。探偵にあこがれる  
カッレは、犯罪の形跡はないかと偵察任務にいそし  
みますが、町は平穏そのもの。この町で探偵になろう  
なんて絶望的! と思いきや、エヴァロッタの家に怪し  
い男がやってきて…。名探偵カッレ・ブロムクヴィスト  
の活やくが痛快な、リンドグレンの探偵小説です。